

移住者新聞

2024
Vol. 2

二〇二四年八月
発行：日田市
商工労政課移住促進係



今年1月に石川県羽咋市より天瀬町に移住した平岩さんご夫婦。以前から移住に関心がありましたが、令和6年能登半島地震で被災したのをきっかけに日田市に移住しました。

◆移住後の暮らし

近所に住む、友人の中川さんからこちらの空き家バンク物件を紹介してもらいました。

とても快適に生活ができており、地域の皆さんも温かい方ばかりで、素敵な友人もできました。我が家の前の畑をお借りすることができ、無農薬・無化学肥料

で枝豆やカブ、おくら、

きゅうり、アスパラ、ナス、トマトを育て、山には山菜わらびやタケノコを採取しに行ったり、また別のお借りした畑では里芋、しょう

が育てたりと多品目の野菜を作っています。イノシシの被害に遭い収穫に至らなかった野菜もありました。試行錯誤で挑戦してい

お盆が明け、かすかに暑さは緩んだような気がしますが日中は油断できない気温が続いています。炎天下での仕事をしている方には本当にいつも頭が下がる思いです。残暑が終わりを迎えるのはしばらく先ですが、食事や睡眠をたっぷりとって乗り切りたいものです。今号は石川県羽咋市から天瀬町に移住した平岩さんご夫婦取材しました。

きます。夫はお米作りを主にやっていますが、五月に種まきをしました。水温などの環境が良かったのか成長が早く、稲の背丈も他の田んぼより高く伸びました。品種はコシヒカリ。



◆現在取り組んでいること

令和元年にリスタートしたYouTube配信を基軸に企画から台本、動画制作、編集まで一人でやっています。八万人の登録者がいます。

視聴者さまを対象とした五十人規模のオンラインサロンと、半年間マンツーマンでご指導する自己啓発プロジェクトの講師業も私の大事なお仕事です。夫は友人の中川さんが主催している無農薬米づくりコースの講師業を担っています。近所の友人からお仕事の依頼がある際は、草刈りやペンキ塗りなどをする

こともあります。私達が作ったお米や野菜と、自然栽培をされている日田の農家さん達のご協力をいただき、「おまかせ野菜・山菜セット」の定期便が再開できるようにしました。農薬や化学肥料などを使わない自然農法で育てた採れたての旬の味をお届けしています。



「日田の旬おまかせ野菜・山菜セット定期便」



バックナンバーはこちら

◆おすすめの場所

塚田温泉です。泉質がとてもよく、中でもモール泉はとても珍しいと思います。温度もそこまで高くなく入りやすいですね。先日、リトリートツアー（仕事や家事など忙しい生活から離れ、非日常的な環境で心身を癒すツアー）を開催しました。東京、神奈川、兵庫、山口からお客様が訪れた際、温泉を堪能して行かれ、温泉の番頭さんやご近所の方が優しく対応してください。皆さん喜んでいらっしゃいました。また、近所にある宇土古墳は地下にある古墳で、近所の公民館に協力頂いて中を見せてもらいました。



自然農法にこだわっている畑

◆ひた暮らして伝えたい事、知ってほしい事

能登から移住して初日から出会う人々がハートフルで優しく、温かいので安心できます。皆さん本当に親身になってくれて、心がある方たちです。お世話になった市役所の職員や、（株）法人リエラの皆さん、不動産屋の丸善さんにも良くしてもらい、移住の流れや説明が分かりやすかったです。前もって中川さんがこの空き家バンク物件を見ていて、ここはいいところだよと教えてもらっていました。その物件を一月十二日にオンライン内見し、十六日にはもう引越してきましたので、最速でした。市の職員さんやリエラの方にも「平岩さん、そんなに早く決めて大丈夫ですか」と心配されたほどです（笑）。こんなにトントン拍子に進んだのは、呂サインが出ていてご縁があったのだと感じています。また、空き家バンクの補助金があることもこれから移住してくる方には知ってほしいです。前もって調べておくことが大切だと思います。

◆今後の目標

夫のお米作りの田んぼを二反から五反へ広げたいです。能登では、はざかけ米を作っていたのでこちらでも同じように天日干しのお米を作りたいです。現在販売しているお米は食味検査でオールSを獲得しています。天瀬に来て初めて生産するお米も、コンクールでの受賞を目指します。また、今年から来年にかけてオフグリッドを実践したいです。オフグリッドとは水道、電気、ガスなどの生活インフラを自給自足している状態で、環境負荷がない生活をしていきたいです。万が一有事があっても、自分たちの力で生きていくことができるし、ご近所の方への手助けになるのではと考えます。



自然栽培のはざかけ米



令和6年4月11日(旧暦3月3日桃の節句)入籍日の結婚セレモニー



山菜わらび畑にて



フキの収穫